

# ◎ 地震・津波対応マニュアル

## 1 はじめに

本校は、富田川上流9kmに位置し、標高は、約44mである。丘陵地の頂上付近に本校があり、南側の斜面が土砂災害の危険地帯がある。東側には国道42号線がある。

本校の校舎や周辺の建物は、近くに4階建ての県営住宅があり、他は民家である。

また、本校は災害時の指定避難施設となっている。本校敷地内に避難用の道具等が保管される予定になっている。

### (1) 地震についての想定

地域の現状から見て津波の心配はなく、以下のことが地震で想定される。

- ・建物等の倒壊
- ・土砂崩れ（地崩れ・地滑り等）

ただし、遠足、修学旅行、社会見学等については津波も想定しておく必要がある。

また、地震津波、土砂崩れについては、防災教育を充実していく必要がある。

### (2) 避難場所について

#### ① 在校時の避難場所

- ◆朝来小学校運動場
- ◆朝来小学校体育館

#### ② 登校時避難場所

- ◆学校に近い場合、朝来小学校
- ◆家に近い場合、近くの避難場所
- ◆バスに乗車時は、運転手の指示に従う。

※地域の皆様に子どもを見かけたら一緒に安全な場所に避難するようにお願いしておく。

#### ③ 児童の住む地区の避難施設

- ◆朝来小学校 ◆なのはな保育所
- ◆妙道寺 ◆大谷老人憩いの家
- ◆あっそ児童館
- ◆朝来コミュニティーセンター ◆榎原神社 ◆圓鏡寺 ◆上富田町役場 ◆保健センター
- ◆社会福祉センター ◆上富田文化会館 ◆熊野高校 ◆南紀の台町内会館 ◆岩崎会館
- ◆大谷町民広場 ◆朝来小学校運動場

【県土砂災害マップより(斜線部が危険地帯)】



### (3) 指定避難施設として

#### ① 非常用時のため、学校の鍵を持っている人

- ◆学校職員、教育委員会、警備会社関係者

#### ② 使用できる場所

- ◆体育館・少人数教室・視聴覚室・音楽室・  
 凶工室（授業日は特別に配置を考える）
- ◆運動場は、駐車場

#### ③ 避難住民への対応の心得

- ◆誠意を持って、奉仕の精神で接する。
- ◆弱者（老人・幼児・障害者・児童）の受け入れを優先する。

#### ④ その他

- ◆避難者の受付・ボランティアの受付・トイレの設置・ゴミの置き場の設置と処理
- ◆風呂の設置・救援物資の運搬と整理・配給

#### ⑤ 学校に備えて置きたい物

- ◆救急…救急箱・医薬品・担架
- ◆情報…テレビ・トランジスタラジオ・ハンドマイク・トランシーバー
- ◆衣食住…ヘルメット・毛布・テント・ビニールシート・防災服・長靴・ろうそく・蚊取り線香・非常食・飲料水・飲料水浄化装置・コンロ・懐中電灯・発電機・乾電池・カメラ・フィルム・デジカメ
- ◆消火用具・工具類…消化器・バケツ・ロープ・バール・ジャッキー・ハンマー・のこりぎ・なた・一輪車・スコップ・つるはし・軍手・脚立・はしご

#### ◆◆避難所開設時の指揮について◆◆

指揮は校長が行う。  
ただし、校長不在の場合は、以下の順で避難所開設の指揮を行うものとする。

- ・教頭
- ・教務主任
- ・生徒指導主任